

科目名	神経・生理心理学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	正木 慶大			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標] 人間が他の動物より優れているのは脳神経系が優れているためである。特に脳は高次の神経活動にかかわり、人間の行動に大きく影響を与えている。その脳の一部が傷害された場合、高次脳機能障害と総称される状態を呈する。神経生理心理学の講義では大きく3つの内容を学習するが、以下の4項目を到達目標とする。 ①脳の構造及び脳の各領域の機能やその検査法について説明することができる。 ②記憶、感情等の生理学的反応の機序とその障害について説明することができる。 ③高次脳機能障害の概要について理解し、実際の症例検討を通して、その検査</p> <p>[授業概要] 精神科医師として20年以上臨床をしている担当教員が臨床場面の経験などを踏まえて神経・生理心理学をわかりやすく指導する。教員が実際に行った研究や経験した症例も紹介する予定である。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書および参考書の該当分野を予習し、講義が終わった後は講義資料を基に再度復習を実施することが望ましい。小テスト実施時にはそれも復習することが望ましい。 各回、予習、復習を合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 脳神経系の構造及び機能①(解剖・生理) 3. 脳神経系の構造及び機能②神経兆候 4. 脳神経系の構造及び機能③意識、せん妄、睡眠 5. 脳神経系の構造及び機能④脳構造・機能の検査方法 6. 記憶、感情等の生理学的反応の機序①記憶とその検査 7. 記憶、感情等の生理学的反応の機序②記憶の障害、認知症 8. 記憶、感情等の生理学的反応の機序③情動の神経基盤について 9. 記憶、感情等の生理学的反応の機序④情動の障害 10. 高次脳機能障害の概要①基礎と疾患総論 11. 高次脳機能障害の概要②基礎と疾患各論 12. 高次脳機能障害の概要③高次脳機能障害症例検討 13. 神経心理学の展開:発達障害</p>				

科目名	神経・生理心理学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	正木 慶大			
<p>[成績評価方法] 基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。 ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストについては、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付ける予定。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>[教科書(ISBN)] 臨床神経心理学 著者名:緑川晶、山口加代子、三村将 出版社:医歯薬出版株式会社(978-4-263-26561-1)</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>				